

Vol. 44 (2020年秋冬号)

* 特集 -9月入学それぞれの思い-

「帰国生にとっての9月入学」

外務省大臣官房人事課子女教育相談室 室長 小澤 一郎

「自信を持って帰国するために」

(公財)海外子女教育振興財団 関西分室 教育相談員 橋本 芳登

「帰国生に聞きました 9月入学に賛成? 反対?」

* かけはしりレポート (第22回) 帰国生の親に聞く「9月入学についてどう思いますか」

* 異文化でドッキリ! <B級グルメ編>

* 海外の学校を紹介します「Jakarta Intercultural School」(インドネシア)

* エッグアートとの出会い in LA -お母さんだってお土産が欲しい!-

* 受験生(帰国生)への応援メッセージ 『帰国生への学校案内《関西》』掲載校等アンケートより

* 学校生活、今こんな感じ

いろいろ議論はされましたが、結局見送りになってしまった日本の学校の9月入学。本号では、帰国子女教育に携わる方、帰国生、帰国生の親と異なる立場から9月入学についての賛成や反対の意見を聞いてみました。



Vol. 43 (2020年春夏号)

* 特集 「海外での親の教育への関わり方」

「親が子どもにできること」

元アトランタ補習授業校 校長 矢橋 良栄

「子どもとの関わり方について—小規模補習授業校で」

トリノ補習授業校 教員 井上 幸子

「私はこうやってサポートしました」

* かけはしりレポート (第21回) 「一時帰国で日本から持ち帰ったもの」

* 海外の学校を紹介します「Alexander Elementary School」(アメリカ)

* 異文化でドッキリ! <現地で言われたこと編>

海外で子どもに日本語以外の言語で教育を受けさせていると、時には親は子どもをどう導けばよいのかと行き詰まることもあるでしょう。子どもにどんな言葉をかければいいのかと迷うこともあるかもしれません。「海外での親の教育への関わり方」をテーマに、補習授業校のお二人の先生からお話をお聞きしました。経験豊かな先生方からのお言葉は、心に響くものがあります。また、かけはし会員の体験談として、子どもの教育への関わり方と思いについて語っていただきました。



Vol. 42 (2019年秋冬号)

* 特集 ー海外の理科教育ー

「帰国生と理科」

(公財)海外子女教育振興財団 教育相談員 中山 順一

「理科」 こんな授業ってあり？

- * かけはしりレポート (第20回) 「海外の理科の授業は好きでしたか」
- * 異文化でドッキリ！ <お米の食べ方編>
- * 海外の学校を紹介します「わたしの学校“PS59”」(アメリカ)
- * 海外の学校を紹介します(アダルト編)「この楽しき VHS Offenbach am Main ドイツ」

帰国生と言えば言語力に長けているというイメージから文系と思われがちですが、理系に興味がある子どもも少なくないようです。「海外の理科教育」をテーマとし、多くの帰国生に理科を教えてこられた先生からお話をうかがいました。また、帰国生や保護者から海外の学校で受けていた理科の授業について聞き取りをし、ユニークな経験談とレポートにまとめました。そして、子どもの「学校紹介」の中にも関連する話題がありました。これらが、いつもとは違う視点から「帰国生」を見ていただくきっかけになればと思っております。



Vol. 41 (2019年春夏号)

* 特集 幼少期を海外で過ごすことのメリット・デメリット

「幼少期を海外で過ごすということ」

京都教育大学附属桃山小学校 校長 香川 貴志 副校長 兒玉 裕司

「幼少期の子どもと海外で過ごして一わが家の場合」

- * かけはしりレポート (第19回) 「子どもの海外生活経験のメリット・デメリット」
- * 異文化でドッキリ！ <トイレ編>
- * 海外の学校を紹介します「My school」(アメリカ)
- * 第2の人生スタート地点エクアドル

海外で学ぶ日本人の子どもは多くは帰国生として日本に戻ってきます。海外で過ごす期間や年齢、環境はさまざまですが、彼らの共通点である「海外で生活した」という経験は、その後の人生にどのような影響があるのでしょうか。今号では「幼少期を海外で過ごすことのメリット・デメリット」をテーマとして、帰国児童の指導に長く携わってこられた先生方からお話をうかがいました。また、会員の経験も体験談とレポートという形でまとめています。



Vol. 40 (2018年秋冬号)

* 特集 海外駐在一親の悩み—

「自身の海外経験を踏まえて」 (公財)海外子女教育振興財団 関西分室 副分室長 小倉 直也
海外生活あるある～親の悩みごと、困ったこと～
海外駐在一父の想い

* かけはしりレポート (第18回) 「海外在留時に持って行ってよかったもの」

* 海外の学校を紹介します「ぼくの学校 Uruguayan American School」(ウルグアイ)

* 異文化でドッキリ! <自分にとって価値ある一品編>

海外赴任の辞令を受けたときにまず思い浮かぶことといえば、現地での生活や子どもの教育、日本に残す家族、お母さまご自身のキャリアの中断などでしょうか。いろいろな年代、状況で海外に暮らした人たちが、そこで悩み、考え、乗り越え、そして気づいたことをとりあげました。レポートでは「海外在留時に持って行ってよかったもの」をリストアップしました。現地での生活に思いをはせながら、また新しい生活を思い描きながら読んでいただければ幸いです。



Vol. 39 (2018年春夏号)

* 特集 一帰国生、寮に入る—

「学校の寮に入るという選択」 同志社国際中学校・高等学校 教諭 西田 喜久夫
「思春期の子どもの成長と寮生活」

立命館宇治中学校・高等学校 カウンセラー コーリン・ジンブルマン

「寮が与えてくれた現在の私」 上智大学1年(同志社国際高等学校卒) 吉橋 茉矢

「寮生活ってどんな感じ？」

* かけはしりレポート (第17回) 「子どもを学校の寮にいれるとしたら気になること」

* 海外の学校を紹介します「上海日本人学校高等部」(中国)

* 異文化でドッキリ! <特別な日の食べ物編>

今号では、単身帰国し、「寮で生活をしながら学校に通う帰国生」に焦点を当てました。寮での生活を経験した子どもの観点から、また、彼らを近くで見守る学校の先生やカウンセラーの視点からお話をうかがいました。そして我が子を送り出す母親の思いを調査考察し、まとめました。これらが親と子の、さらに大人と子どもの関わり方を考えるきっかけとなり、帰国生の進路の選択肢が増えることにつながれば幸いです。



Vol. 38 (2017年秋冬号)

* 特集 —ベストな帰国のタイミングとは?—

「子どもの帰国のタイミングに合わせてすべきこと」

パナソニック(株) 海外子女教育相談室 前相談員 脇田 孝豪

保護者体験談 「家族一緒に帰国」

「子どもが先に帰国」

「それぞれの帰国」

* かけはしりレポート (第16回) 「自分の帰国時期についてどう思いますか?」

* 異文化でドッキリ! <勘弁してほしいこと編>

* 海外の学校を紹介します 「My Sunshine Days」(イギリス)

海外に子どもを帯同する多くの親が帰国時に直面するであろう、「帰国のタイミングに正解はあるのか」という悩み。企業の海外子女教育相談室で相談員をなさっていた先生のお話と保護者の実体験を掲載しました。学齢や状況の異なる子どもの帰国時におけるアドバイスになればと願います。レポートは、帰国時期を選ぶことのできない帰国生自身に「自分の帰国時期についてどう思うか」という意識調査を行い考察しました。結果にほっと胸をなでおろす親もいるかもしれません!



Vol. 37 (2017年春夏号)

* 特集 —日本の英語教育—

「日本の英語教育の現状とこれから」 神奈川県立国際言語文化アカデミア 教授 江原 美明

「帰国生にとっての日本の英語教育」 京都市立向島東中学校 英語科教諭 中原 雅代

* かけはしりレポート (第15回) 「あなたは自分が帰国生でよかったと思いますか?」

* 異文化でドッキリ! <町で見かけた不思議なもの編>

* 海外の学校を紹介します 「一步未来に踏み出す!」(アメリカ)

毎年、海外で学齢期を過ごした多くの子どもたちが帰国します。現地で培った力を発揮できる場合もありますが、「日本の英語教育」に戸惑いを感じる子どもも少なくはありません。NHKの語学番組「リトルチャロ」で講師を務められた大学教授と、長く帰国生に携わってこられた英語科教諭にお話をうかがいました。親が子どもの気持ちを理解して寄り添い、サポートするヒントがちりばめられています。レポートは、「自分は帰国生でよかったと思うか」とのアンケート調査を行い、約150名から得た回答を考察しました。



Vol. 36 (2016年秋冬号)

* 特集 一幼少期の日本語教育一

「幼少期の日本語の大切さ」 (公財)海外子女教育振興財団 関西分室 教育相談員 菅原 光章
「幼少期の日本語教育」 ローリー日本語補習学校 校長 伊井 直明
かけはし保護者体験談「教育言語—我が家の選択」

* かけはしレポート (第14回)「海外で子どもの日本語の保持・伸長に役に立ったもの」

* 異文化でドッキリ! <道具編>

* 海外の学校を紹介します「ブラッセル日本人学校」(ベルギー)

日本の小学校や在外教育施設の先生方に、幼少期の日本語教育の大切さにまつわるお話をうかがいました。また海外生活を充実させながら母語を育てる工夫について、レポートにまとめてあります。



Vol. 35 (2016年春夏号)

* 特集 一帰国生の大学選択一

将来に向けたビジョンをもって 海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 上海浦西校校長 石井 昭彦
帰国生の大学選択とは 前大阪府立千里高等学校校長 林 伸一
私の大学選択—生命医科学 早稲田大学 後藤 彩花
私の大学選択—建築 大阪大学 辻本 慶佑
私の大学選択—法学 一橋大学 久保 咲月

* かけはしレポート (第13回)「帰国生のホンネ《その2》—帰国生はお得だと思わない理由」

* 異文化でドッキリ! <飲み物編>

* 海外の研究所を紹介します「CERN 滞在記」(スイス)

東京大学大学院 田中 陶冶

* ヨルダン紀行

「帰国生の大学選択」をテーマに海外の塾や帰国生を長年受け入れている学校の先生、また3人の帰国生から経験談をうかがいました。レポートではなかなか親からは聞きにくい「帰国生でお得だと思わない」心のうちをまとめてみました。



Vol. 34 (2015年秋冬号)

* 特集 「帰国生のホンネ」

「伝えたい、帰国生の胸の中(うち)」

帰国生 6名

「お話を伺って」

(公財)海外子女教育振興財団 関西分室 副分室長 宮崎 直也

* かけはしりレポート (第12回) 「帰国生のホンネ《その1》—帰国生はお得だと思ふ理由」

* 異文化でドッキリ! <朝食編>

* 海外の学校を紹介します「ベルリンインターナショナルスクール」(ドイツ)

* 3回目の駐在に伴って

「親の仕事の関係で海外と日本を行き来した子どもたちの素直な気持ちを知りたい」という広報部メンバーの思いから、「帰国生のホンネ」に迫りました。また、小学生以上のお子さんに「あなたは帰国生でお得だと思いますか」というアンケートを実施したところ、多岐にわたる回答が寄せられ、その分析と考察を本号、次号2回に分けてレポートいたします。



Vol. 33 (2015年春夏号)

* 特集 「生きる力」

「生きる力は情緒の安定から」

大阪海外子女教育・国際理解教育研究会顧問 藤内 博

「生きる力」をつける

大阪府教育委員会事務局 主任指導主事 池嶋 伸晃

* かけはしりレポート (第11回) 「帰国生は日本の学校についてどのように感じているのか」

* 異文化でドッキリ! <言い回し編>

* 海外の学校を紹介します「Suzhou Singapore International School」(シンガポール)

* 親子で受継ぐ日本への思い

新学習指導要領の大きな柱の一つである「生きる力」を取り上げ、教育に携わっておられる二人の先生方に「生きる力」とは何か、その力を育むために親として何ができるかなど、広くお話をうかがいました。かけはしりレポートでは、『帰国生への学校案内《関西》2015』掲載校に在籍する帰国生の皆さんにご協力いただいたアンケート調査から「日本の学校で感じていること」について分析、考察いたしました。



Vol. 32 (2014年秋冬号)

* 特集 一子どもの思考力を高める一

「IB(国際バカロレア)教育を日本にも」 立命館宇治中学校・高等学校 教頭 東谷 保裕
「海外の通信教育 やる気にさせる工夫」(公財)海外子女教育振興財団 通信教育チーム 藤井 達夫

* かけはしりポート (第10回) 「海外における日本の通信教育の利用とその実態」

* 異文化でドッキリ! <マナー編>

* 海外の学校を紹介します「ジェームス・ベイ・コミュニティ・スクール」(カナダ)

* 娘の留学 ふたたびイギリスへ

「子どもの思考力を高める」をテーマに据え、立命館宇治中学校・高等学校で国際バカロレア(IB)教育を統括する東谷保裕教頭先生に日本のIB教育の現状をおうかがいしました。通信教育を海外で続けるコツについて海外子女教育振興財団通信教育チームの藤井さんに話していただきました。また、帰国生が実際に海外でどのように通信教育を利用していたかをレポートで調査しています。



Vol. 31 (2014年春夏号)

* 特集 一未来につながる言葉一

「第二言語を保持するためにできること」 大妻女子大学・大学院 教授 服部 孝彦
「日本の宝を育てる」 ICBA(国際児童文庫協会)

* かけはしりポート (第9回) 「海外での経験が日本の学校でどのように役に立っているのか」

* 海外の学校を紹介します「Jakarta Japanese School」(インドネシア)

* 異文化でドッキリ! <学校行事編>

* 「かけはし」30年の足跡

* 学校案内のあゆみ 学校案内編集部

* 30周年に寄せて 「帰国生」、「帰国生教育」、この十数年

会の発足30周年記念号。異文化間で育つ子どもたちの「言葉」に注目し、「第二言語の保持、喪失」研究の第一人者、服部孝彦教授にお話をうかがいました。また、国内外で文庫活動をされているICBA(国際児童文庫協会)英国支部長、森嶋瑤子さんをロンドンで取材しています。レポートでも、海外経験が日本の学校でどのように役に立っているか、帰国生に聞きました。



Vol. 30 (2013年秋冬号)

* 特集 『2度目、3度目の海外赴任 ～家族の選択～』

「再び海外赴任が決まったら」 (公財)海外子女教育振興財団 関西分室 教育相談員 森本 昭憲
「海外生活でストレスと折り合うために」 精神科医 赤沼 のぞみ
「また海外赴任! さて、どうしますか?」

* かけはしりレポート (第8回) 「再びの海外赴任—あなたは同行しますか?」

* 異文化でドッキリ! <お祭り・パーティー編>

* 海外の学校を紹介します「MY PAST TIMES」(イギリス)

* 海外でのお稽古 足つぼマッサージのうれしい効能

2度、3度と海外転勤を経験する方がいます。再度の海外転勤に家族が同行するかどうか、財団の教育相談員にお話をお聞きしました。またかけはしり会員の家族の決断も紹介しています。海外生活でかかるストレスとの折り合い方について、精神科の先生にもお話をうかがいました。



Vol. 29 (2013年春夏号)

* 特集 『帰国生 さまざまな選択』

「どちらの国で私の夢をかなえるのか」 ハノーバー医科大学 学生 吉沢 栄美
「帰国生としての価値の発揮を目指して」 会社員 池内 絵美
「帰国生の進路」 関西学院千里国際中等部・高等部 校長 眞砂 和典

* かけはしりレポート (第7回) 「現在通っている学校を選んだ理由」

* 異文化でドッキリ! <交通編>

* 海外の学校を紹介します「ストーニーブルック校と補習校」(アメリカ)

* 宮城プロジェクト ～国をつなぐボランティアスピリット～

帰国生の進路について、社会人になった帰国生二人と、長年帰国生を見守ってこられた先生に話をお聞きしました。それぞれの立場から、アイデンティティの問題、仕事や働く国を選ぶまでの道のり、家族との関係などについてお話しいただきました。帰国生である自分の価値を活かした進路を探せるといいですね。異文化でドッキリは<交通編>です。



Vol. 28 (2012年秋冬号)

* 特集 海外における年少児の日本語教育

「幼少期の日本語の大切さ」

神戸大学附属住吉小学校 杉浦 浩

「外に踏み出す一步の勇気を」

(公財)海外子女教育振興財団 外国語保持教室アドバイザー 小木曾 道子

* かけはしりレポート (第6回) 「帰国後の勉強法—うまくいったこと、いかなかったこと」

* 異文化でドッキリ! <出産編>

* 海外の学校を紹介します「マレーシアの思い出」(マレーシア)

* 神秘の島バリ島に暮らす

海外での日本語教育について、帰国生教育の第一線で活躍されているお二人の方にお話をうかがいました。幼少期の日本語教育の重要性を改めて認識するとともに、親にできる子どもへのサポートは心に留めておいておきたいものです。レポートでは、帰国後の勉強法について考察しています。



Vol. 27 (2012年春夏号)

* 特集 それぞれの家族の海外赴任のあり方

「保護者と離れて学ぶ生徒たちと共に」

立教英国学院 校長 棟近 稔

「家族が離れて暮らすときの心得」(公財)海外子女教育振興財団 関西分室 教育相談員 山岡 莊平

* かけはしりレポート (第5回) 「帰国卒受験のために準備したこと」

* 異文化でドッキリ! <おけいこ編>

* 海外の学校を紹介します「フレンチポリネシア・タヒチでの学校生活」(タヒチ)

* 補習授業校の運営委員を経験して

海外生活を経験した子どもたちが特別扱いされることが少なくなってきたといわれ情報・ネット社会がめざましく発展している昨今、今回の特集は今の帰国生、社会が抱えている課題について考えます。レポートは「帰国卒受験のために準備したこと」を帰国生徒と保護者へのアンケート調査から考察しました。ドッキリ! は子どもや親のお稽古編。学校紹介はタヒチの現地校です。



Vol. 26 (2011年秋冬号)

* 特集 帰国生この10年の変化

「最近の帰国生教育事情」 大阪 YMCA 国際専門学校 国際高等課程 国際学科 小路 清一

「海外での生活体験は財産である」 泰夢エデュケーションネットワークバンコク 前園 和人

「帰国生この10年」 神戸大学附属中等教育学校住吉校舎 榎木 由紀

10年前の帰国生 VS 最近の帰国生 S.H.さん(大学生)、W.H.さん(中学生)

* かけはしりレポート (第4回) 「帰国生が日本の学校で困ったこと」

* 異文化でドッキリ! <お家のトラブル編>

* 海外の学校を紹介します「バルセロナ日本人学校」(スペイン)

海外赴任でお子さんを帯同するか、寮のある学校に預けるか、親が帰任する際子どもを現地に残すか、さまざまな状況がある中、今回の特集は親子が離れて暮らす場合の心がけをテーマに遠く離れた学校との関わり方や家族の絆について考えました。レポートは「帰国生が日本の学校で困ったこと」をアンケート調査から考察しました。ドッキリ! は各国の家でおきたトラブル編。学校紹介はスペインのバルセロナ日本人学校です。



Vol. 25 (2011年春夏号)

* 特集 子どもの異文化体験を活かすために

「海外における日本の教育—日本語補習校の役割」

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会顧問 生野 康一

「外国語保持教室を見守って」

(財)海外子女教育振興財団 関西分室 田中 悠子

「あなたにとって幼少期の異文化体験とは?」 T.Tくん(大学1年)、H.Mさん(大学4年)

* かけはしりレポート (第3回) 「幼少期に帰国した子どもの英語保持」

* 海外の学校を紹介します「リヤド日本人学校での経験」(サウジアラビア)

* 異文化でドッキリ! <食材編>

「子どもの文化体験を活かすために」をテーマに全海研の生野先生に日本語補習校の役割について、海外子女教育振興財団の外国語保持教室を担当されている方に教室での帰国生の様子を、レポートでは「幼少期に帰国した子どもの英語保持について」のアンケート調査の結果を考察しました。異文化でドッキリは食材編です。



Vol. 24 (2010年秋冬号)

* 特集 インタビュー2010

「子どもに共感する心、子どもを受け容れる心」(財)海外子女教育振興財団 関西分室 山下 良一
「日本の教育・海外の教育」 大阪教育大学教育学部 教授 森田 英嗣

* かけはしりレポート (第2回) 「母親たちの帰国後の生活変化と今後の駐在生活への希望」

* 海外の行事『ハロウィン』(アメリカ)

* 異文化でドッキリ! <買い物編>

海外子女教育振興財団の相談員の山下先生に子どもに対する親の接し方を、また、大阪教育大学教授の森田先生に日本と海外の教育の違いについてお話をうかがいました。レポートでは母親たちの帰国後の生活の変化と今後の海外駐在生活への希望をアンケート調査いたしました。現地の買い物でドッキリした話も必読です。



Vol. 23 (2010年春号)

* 特集 インタビュー2010

「人間は異文化間に存在する」 龍谷大学 教授 小島 勝
「帰国生の大学入試」 代々木ゼミナール国際教育センター 横川 友子
「帰国生の教育相談について」 パナソニック㈱ 海外子女教育相談担当 赤塚 民三

* かけはしりレポート (第1回) 「子どもの異文化接触時の反応と適応期間について」

* 海外の学校『私の学校を紹介します』(ベルギー)

* 異文化でドッキリ! <医療編>

* ホストファミリー体験記

龍谷大学教授の小島勝先生に開教使がはじめた海外子女教育のお話を、また代々木ゼミナールで帰国子女の大学受験を指導されている横川先生に最近の受験事情を、パナソニック海外子女教育相談担当の赤塚先生にはご家族から寄せられる相談についてお話をうかがいました。子どもの異文化間適応についてのレポートや異文化でドッキリ医療編など盛りだくさんです。

